

家畜衛生だより 令和7年9月号

紀北家畜保健衛生所

電話 073-462-0500

紀南家畜保健衛生所

電話 0739-47-0974

紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所 電話 0735-58-1481

キョウチクトウによる中毒に注意しましょう

今年8月、県内の繁殖和牛農家で、有毒植物であるキョウチクトウによる中毒が疑われる死亡事故が発生しました。



キョウチクトウ(落葉)

庭木や街路樹に広く用いられている常緑樹。剪定したキョウチクトウの枝を飼料や敷料に利用したり、飼料にキョウチクトウの落葉が混入した場合に、それを摂取した牛が中毒を起こします。牛がごく少量のキョウチクトウの落葉を食するだけでも死に至ります。枯葉の状態でも牛に対する中毒性に変化はありません。キョウチクトウの枯葉は褐色でほかの草と見分けが付きにくいため注意が必要です。

【キョウチクトウ中毒の症状】

食欲不振、下痢、運動失調、（聴診における）心音の異常などですが、特異的なものではありません。畜主が気づかないうちに急死することがあります。今回の事例での初期症状は、食欲不振および体温低下（37.5～38℃）、皮温低下でした。

また、キョウチクトウの解毒剤はなく、中毒症状が出た場合は対症療法しかありません。キョウチクトウの混入を発見した際は直ちに飼料を撤去し、給与を中止してください。

【キョウチクトウの毒性】

致死量は体重 1 kgあたり乾燥葉 50mg と言われています。
500kg の牛だと、25g 程度の葉で死に至る可能性があります。

飼料費が高騰している中、生産コスト削減のために野草給与を取りいれている方も多いと思います。野草を給与する場合は、有毒植物が採草地の近辺に自生していないか、飼槽等に混入していないかを必ず確認するようにしてください。

また、道路清掃等で排出された野草を活用する場合なども、給与に適さないものが混入していることが十分考えられますので注意してください。

キョウチクトウ以外にも、家畜にとっての有毒植物はたくさんあります（ワラビ、ヨウシュヤマゴボウ、ナルトサワギク、ギシギシ…など）。



〈ワラビ〉

- ・血尿
- ・血便
- ・出血（鼻出血）
- ・数日で死亡

など



〈ヨウシュヤマゴボウ〉

- ・流産
- ・嘔吐
- ・下痢

など



〈ギシギシ〉

- ・消化管炎症
- ・カルシウム欠乏
- ・腎障害

など



〈ナルトサワギク〉

- ・嘔吐
- ・下痢
- ・肝障害

など

※写真は大阪府獣医師会、農研機構 HP より掲載

給与前の飼料はよく確認し、

『わからないものは給与しない』を徹底しましょう。

飼養する牛が集団で食欲不振、急死等の症状を呈した場合、特定家畜伝染病等の伝染性疾患の感染、有毒植物による中毒、飲水の汚染など様々な可能性が考えられます。このような事態を確認したら、速やかに家畜保健衛生所へ通報してください。